

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0970101861		
法人名	株式会社 メデカジャパン		
事業所名	今泉ケアセンターそよ風		
所在地	栃木県宇都宮市中今泉4-22-1		
自己評価作成日	平成22年8月25日	評価結果市町村受理日	平成23年4月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.t-kjcenter.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成22年9月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

月に1回以上の外出と、週に1回以上の大きなレク・イベントへの取り組みを行っています。また、個々の生活状況に合わせた支援を行えるよう、コミュニケーションを十分に図りながら生活をしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは宇都宮市立東図書館に隣接した閑静な住宅地内にあり、近辺には商業施設もある等、利便性の高い場所に立地している。ホームでは母体法人の統一スローガンである「共生共助の精神で共生社会を実現」を基にして、ホーム独自の理念もつくりあげており、理念の実践に努めている。入居者一人ひとりの個性を尊重した支援に組み込み、入浴は就寝時間に近い時間帯にしたり、日常的に午前中は近隣へ散歩等の外出、午後はホーム内でのレクリエーションを本人に無理のない範囲で実施している。また、入居者個々の尊厳やプライドにも配慮しており、入居者の呼び方は苗字や名前に「さん」付けて呼んでいる他、家族とも随時連絡を取り合い、入居者の情報や要望の確認に努めている。全国展開している母体法人のメリットを生かして、介護保険に関する情報等も容易に入手できる体制となっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人としての理念とスローガン、事業所としての理念を念頭に置き、全員が取り組んでいる。	ホームでは「その人らしくゆったりとした生活を支援していきます。いつも笑顔を忘れず、元気にすごしましょう」という独自の理念に基づき、入居者各々の状態の変化に応じた支援に努めており、理念の実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事への参加や、散歩中の会話を通し、地域の方々との交流が図れるよう努めている。	自治会に加入しており、回覧板でホームの行事等を案内して貰っている。また、コミュニティーセンターのイベントへの参加や近隣の保育所児がお祭りの際にお神輿を見せに来てくれている他、近隣住民も来所してくれている等、地域との相互交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議内での勉強会の実施や、介護者教室の計画をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者様の状況報告や実施したレク・イベントの報告を行い、民生委員・地域包括職員の方からの意見を次回に生かしている。	会議は自治会、民生委員、地域包括支援センター職員、家族、入居者等がメンバーとなり2カ月毎に開催している。今後は、会議を通して、災害時に避難誘導や協力について近隣住民に呼びかけることを考えている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村との関係作りは行えていません。今後、運営推進会議への参加や相談が行っていけるような関係を構築していきたい。	介護保険等の事業の運営に関する情報取得は法人内でできていることもあり、市担当職員とは積極的に連携はしていない。	グループホームは地域密着型のサービスであり、地域独自の情報を取得する意味から、今後はホームの行事や運営推進会議への参加を呼びかける等、市担当職員との連携を強化していく取組みに期待したい。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ユニット出入口は安全への配慮で施錠されている。但し、事務所を通じて両ユニットへの行き来は出きるようになっている。玄関については、夜間を除き施錠していない。	身体拘束に当たる行為は職員間で十分に認識しており、身体拘束をしないケアの実践に努めている。日中は玄関への施錠は行わず、入居者が無断で外出した場合、1時間以上探して見つからない時には、警察に連絡する体制となっている。	

今泉ケアセンターそよ風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	関連資料を事務所内に設置し、全員へ周知・徹底をしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	関連資料を事務所内に設置し、全員へ周知・徹底をしているが、支援には至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書を基に、細かい部分の説明や、疑問点がないかを必ず確認し、契約していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時のコミュニケーションやお手紙を通じ、できる限り反映できるようプランの見直しも行いながら実施している。	重要事項説明書に苦情相談の窓口を明示しているが、具体的な苦情は無い。家族からは来所時の意見や要望等の確認をしているが、都合により来所が難しい家族には手紙を送付し意見や要望等の確認に努めている。なお、家族からの意見により、出納帳は家族が来所したときに確認し、押印をしてもらうことになった。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議やグループホーム会議に管理者・センター長が出席をし、意見を吸いあげている。	毎月開催している全体会議等で職員からの意見や提案の把握に努めている。入居者の利便性向上のために職員の意見を取り入れ、法人内の決裁権を高額でなければホームで執行できるようにする等、迅速な対応に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	契約更改時の面接や、勤務中にコミュニケーションを図りながら環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修要綱は、必ず全職員へ周知をし、できる限り参加ができるよう調整している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社内グループホーム協議会を通じ、他センターとの情報共有や問題解決ができています。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安の解消と共に、ご本人が好きなこと・得意なこと等を聞きながら、今までの生活スタイルに近い日々が送れるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居を考えた理由や、自宅で困っていたこと、要望を聞き、生活に慣れるまでは特にこまめに連絡を取り合っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームでの生活に慣れることの他に、ご本人が必要としていることをご家族に確認しながら対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活全般のことは、ご本人と職員が一緒に行うことで、関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の様子は、良い事・悪い事を含めきちんと報告し、情報を共有しながら支援できるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	グループホームの行事を除き、外出についてはご家族にお願いをし、これまでの事が途切れてしまわないよう努めている。	入居者から馴染みの場所等についての訪問の要望は少ないが、家族と共に馴染みの美容室や外食等に出掛けている。入居者の昔からの知り合いが来所してくれる事も多く、馴染みの場所や人の関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居時のユニットの選択や、必要に応じてユニット変えを行うことで、馴染みの関係が築けるような環境作りをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	新しい施設での生活はどうか、何かあったらいつでもお電話下さるよう、相談できる環境作りをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	これまでの生活状況・ご本人の希望を取り入れ、ご家族の意向も確認しながら把握に努めている。	入居時に今までの生活状況等をホーム独自のシートに記載してもらい、それにより歌が好きな人は歌の時間を多くしたり、運動が好きだった人には、体操やレクリエーションの時間を多くする様にしている。また、日頃の言動や仕草等からも本人の希望や意向をくみ取るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に、ご家族からのヒアリング・ご本人の訴えをよく聞き、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	起床時間・就寝時間・休息が必要か、どんなことができるか、個々に把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者の一存ではなく、職員からの気づきやご家族の意見も吸いあげて作成している。	入居者の日々の言動を職員が観察しながら介護援助計画表にメモをし、カンファレンス時に全職員で検討している。家族の意向も確認しているが、あまり希望は出されていない。介護計画の見直し時期は入居後は1カ月後に行い、その後は3カ月、6カ月に行っただうえ、1年単位で行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録への記入は日々行っており、計画作成担当者とも情報共有をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その都度ご家族と確認をとりながら、できることは取り組んでいけるよう努めている。		

今泉ケアセンターそよ風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	知人の方の訪問や個々が必要としているニーズを活用し、その方らしい生活ができるよう調整も行いながら支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診については、基本的にご家族へお願いをしており、必要に応じて近況の報告や、ご家族と一緒に受診への対応ができる体制を構築している。	本人及び家族が希望するかかりつけ医での受診を支援しており、受診時の付添いは家族にお願いしている。家族が都合の悪い場合や入居者の状態が急変した場合等にはホームで対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	各ユニットリーダーや管理者への相談・報告の他、センター内の看護師と協力しながら状況変化の早期発見に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	退院が決まった場合には、早期に対応できるよう状況の確認や把握に努めている。普段からの関係作りは、一部の方しかできていない。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ADLの低下や、共同生活が困難になってきた場合には、その旨ご家族へ相談をし、どのようにしていったら良いか話し合いをしている。	入居時に家族には、重度化した場合の対応は入居者の状態に応じて随時相談する事を説明している。終末期への対応については、看護師等の医療関係者がいない事から医療行為への対応はできないが、かかりつけ医等と連携を取りながら、できるかぎりホームでの生活が継続できるよう努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	対応方法について、事務所内へ掲示はしているが、訓練は行っていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害発生時の対応方法については、マニュアルを作成し事務所内に掲示している。地域との協力体制は、構築できていない。	ここ1年間は消防署立会いの消防訓練は実施していないが、ホーム独自に夜間時を想定した避難訓練等を実施している。災害発生時の対応や緊急時の連絡体制等は全体会議等において職員への周知に努めている。また、乾パンや缶詰等の非常時の食料の備蓄も行っている。	今後、消防署員の立会いによる訓練の実施や災害発生時に近隣住民からの援助や協力体制づくりに向けた取り組みに期待したい。また、備蓄している水や食料などの品質確保にも再検討していく事にも期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員が上からの目線にならないよう注意し、言葉を選んで声かけするようにしている。	ホームでは職員への接遇研修を随時開催しており、入居者の尊厳やプライバシーの配慮に努めている。職員は入居者を「さん」付けで呼んでいる他、個人の記録等の書類は事務所内にて適切に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	“やって下さい”の声かけではなく、ご本人が決定できる声かけを行っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	だいたいの流れは決まっていますが、入浴の有無やレク・散歩等への参加は、ご本人の意志を尊重しながら行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日に着るものは、ご本人に選んでいただけるような支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	できる方へは、準備を一緒にしてもらえよう促し、職員と協力して行っている。	食事の準備や後片付けは職員と入居者が一緒に行っている。昼食は勤務時間の関係で職員と入居者が一緒に食べる事はできないが、朝食と夕食は原則として一緒に食べている。近隣のショッピングモールや飲食店に外食にも出かけており、食を楽しめるよう支援に取り組んでいる。	昼食時に職員が入居者と一緒に食事が出来ない事はやむを得ないとしても、軽い音楽を流す等、楽しく食事ができる工夫を今後検討していく事を期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量の多い・少ないは、ご家族へ確認をとりながら提供しており、水分については、できる限り摂取していただけるよう、声かけしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、1人ずつ口腔ケアを促し、できない方へは職員が声かけ・支援している。		

今泉ケアセンターそよ風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンによってトイレへ誘導し、夜間帯においても無理のない程度に時間でトイレ誘導を行っている。	入居者一人ひとりの排泄パターンや状態に応じてトイレ誘導を行っている他、入居者が失禁した時の対処方法を職員間で決めており、他の入居者に知られず対応出来るようになっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、牛乳を飲んでいただいている。また、個別にきざみ食・制限食への対応も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には、毎日でも入浴できる体制を整えており、就寝時間に近い夕方からの入浴支援をしている。	就寝時間に近い午後4時からを入浴時間とし、毎日入浴出来るようになっている。入浴の拒否傾向が強い入居者にも声かけやタイミングを考慮しながら無理なく誘導しており、入居者全員がほぼ毎日入浴できている。入浴剤等も使用しながら、楽しく入浴できるように工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	全居室が個室になっているので、安心して休息できる環境である。また、プライバシーへの配慮もできている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書は必ず全員が目を通し、服薬に変更があった時は、特に注意して様子観察をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	できる方ができない方のフォローをしたり、1階のデイサービスに顔なじみの方がいる入居者の方は、1階へ降りて気分転換ができる環境を作っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候によってはありますが、基本的には毎日散歩へ出かけられる環境を作っている。 月に1回以上は、車で外出する機会を設けている。	天気が良い日には、散歩や買い物に出かけたりと日頃から外出する機会をつくっている。また、ろまんちっく村や市貝町の芝桜等を見に出かけており、定期的に遠方への外出も行っている。	

今泉ケアセンターそよ風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	トラブル防止のため、事務所での保管になっているが、ヤクルトさん・パン屋さんの訪問時には、自由に使えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	今現在、そのような希望が出ていないため、こちらから働きかける機会を作っていくたい。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは明るく、廊下は落ち着いた色にしており、壁紙に季節の物を取り入れ、季節感を出す等しながら、心地よく過ごせる空間作りをしている。	共用空間は清掃や換気が行き届き、不快な音や光、空気のよどみや気になる臭い等はない。部屋の清掃は毎日職員が行うが、入居者から清掃の仕方を教えて貰うこともある。シーツ交換や洗濯等は週2回行われている。共用部分はソファや椅子が設置しており、居心地の良い空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルで過ごす方、ソファでくつろぐ方、好きなスタイルで過ごせる環境を整備している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の馴染みの物は、危険物を除き自宅から持ち込んでいただき、安心して過ごせる環境作りをしている。	居室にはベットや椅子、カーテン等、自宅で使用していたものを持ち込めるようになっており、入居者にとって安心して生活ができる環境となっている。入居者は家具類の他に仏壇やテレビ、猫のぬいぐるみ等も持ち込んでおり、一人ひとりが個性的な居室をつくりあげている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人の思ったように動くことができ、お1人でも安全に生活が送れる環境である。		